

FAREの重農政策レポート

農業に重きをおき、食糧生産を保護することにより、国家を安定させる、それが重農主義である。今回はこの重農主義についてレポートしよう。

農作物というものはもともと不安定なものである。早魃や洪水、気温が上昇しないことなど様々な要因ですぐに不作となってしまうことがある。

これが広い範囲で起こるとその農作物は市場にあまり出回らなくなり、需要が供給を上回ることで価格が上昇する。主要農産物が極端な不作に見舞われた場合、十分な蓄えがない場合、大規模な飢饉がおこることになる。これは社会不安を招き、治安を低下させる大きな要因となりうる。

そこで農業に重きを置くことで、食料不足による不安を失くすことがこの政策の最大のポイントである。これは食糧の確保がいかに重要な課題であるかということが示されているだろう。

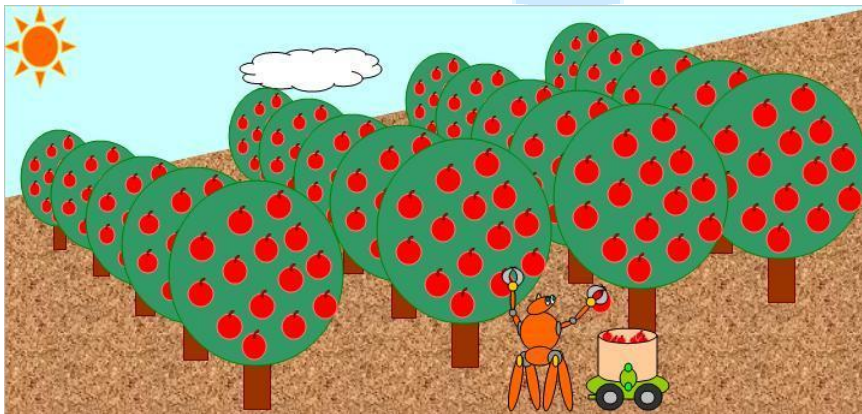
そこで利用されるのが、かの[藩国食糧倉庫](#)である。

この藩国の事情により建築されたこの倉庫は今ではたとえ飢饉が起きたとしても緊急放出により、対応できるほどの備蓄量に上るようになった。税収こそ物納が可能とされたために食糧が入りやすくなったとはいえ、このスピードでの備蓄は類を見ないはずである。

もちろん ただ食糧生産を保護するだけでは飢饉対策としては十分とは言えないだろう。不作が起こりにくい、気候に左右されにくい農業技術、それが支えているといっても過言ではない。

この両輪で土場の食糧事情は守られていくのである。

この農園を見ていただこう。



FAREの重農政策レポート

この巨大な農園はかつては人が住まない荒野であった。
食糧政策の結果、現在では機械化が進んでこんなにもたわわな実をならせる果樹園が広がっている。

これらによる蓄積は次第に農業以外の生産を活発化させる力になるだろう。
というところで今回は筆を置かせていただこう。

参考文献

土場藩国食糧政策論：缶名書房 スチール・カン著

農業円舞曲：元学館 KBN著

著者紹介 FARE

FARE-Mの後を継ぐものとして、土場藩国に入国
以後、PPGへの出向や各部隊への伝達係として働く。
見た目はもふもふとした白犬である。

